

「ミラノ国際博覧会・日本館」新築工事

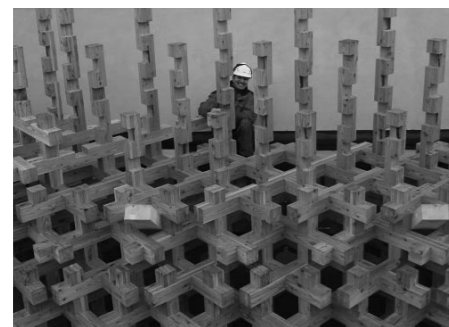
株竹中工務店国際支店 ヨーロッパ竹中イタリア シニアプロジェクトマネージャー

松原哲史

Satoshi Matsubara



完成予想パース図



立体木格子工事施工状況 (2014年12月時点)



西面外装工事施工状況 (2014年12月時点)

ミラノについて

ミラノはラテン語で「メディアオラム・平原の真中」と呼ばれ、地理的にも経済的にもイタリア北部ロンバルディア地域の中心都市として発展してきました。現在はGDP・企業数等経済指標においてイタリア国内トップの都市で、同国における金融・経済の中心地となっています。また、ご存じの通りミラノはデザインとファッションの街としても、世界中を魅了しています。このような魅力的な都市ミラノで二〇一五年に国際博覧会が開かれることは、ミラノ市民のみならずイタリア全国民から、経済復興へのきっかけ、そして自信回復への足がかりになるとして期待されています。

二〇一五年ミラノ国際博覧会について

ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）は二〇一五年五月から十月までの半年間、ミラノ市西部郊外にある一一〇万平方メートルの会場で開催されます。二十世紀に隆盛を極めた「国威発揚型」「開発型」の万博から一転、二十一世紀は「理念提唱型」の万博が主流となっています。二〇〇五年の愛知万博（「自然の叡智」）に続いて、上海万博（「より良い都市、より良い生活」）でも人類共通のテーマが掲げられ、その地球規模の課題



南面作業所全景 (2014年12月時点)

に対し、各国がその解決の方向を示すことが求められてきました。

今回掲げられたテーマは、「地球に食料を、生命にエネルギーを (Feeling the Planet, Energy for Life)」。一四〇カ国以上が参加し、「食糧をめぐる人類共通の課題と、その解決策や貢献策」を模索します。

プロジェクト概要と特徴

今回のプロジェクトで建築するミラノ万博日本館は、約四、一七〇平方メートルと参加国の中でも最大級です。鉄骨造地上二階建て、最高高さ一五・四メートル、延床面積四、三九〇平方メートルで、二〇一四年七月着工、二〇一五年四月竣工を予定し

ています。「共存する多様性」を出演テーマに、このパビリオンでは日本食、日本食文化に込められた多様な知恵と技をアピールしています。また、「立体木格子」を建築素材として採用し、日本の四季・自然・生態系・食など多様性の原点を表しています。この素材は、日本の伝統的木造建築で使われる継手・仕口といった知恵と、現代技術を駆使した木材同士の「めり込み作用」の解析・応用を融合させ実現した、革新的な手法です。

完成時には、完成予想パース図に示す通り、三次元立体木格子の壁が特徴的なパビリオンが実現することになります。

プロジェクト現況

敷地のほとんどを建屋が占有し、またEXP O規則による様々な規制（入場制限、敷地外仮設ヤード無し等）により、綿密な計画・調整や厳しい現場管理が要求されてきましたが、一つ一つ困難を乗り越えながら現在は内外装の仕上げ工事、設備工事を順次進めています。各工事が幅員する中で今後さらに難しい局面を迎えますが、最後まで安全・品質への配慮を行い、建築主他全てのステークホルダーの要求を満たす、魅力溢れる「日本館」を提供できるよう工事を鋭意進めてまいります。